大和町立小野小学校　校長室だより　『明るく　賢く　強く生きる子供』

未来を夢見て

2020/8/4 No. 28

６年生国語「風切るつばさ」

梅雨が明けて、今日は夏本番を思わせられるような快晴の１日となりました。

昨日のＮＨＫさんに続いて、今日はＫＨＢさんの取材が朝からありました。今日も取材を受けた児童の様子について、カメラマンの方から大変褒めていただきました。学校で子供たちを褒めていただくことに勝るうれしさはありません。今回のサマータイムは、苦肉の策ではありましたが、暑さ対策や、子供たちの生活リズムを「朝型」に変える、という意味では一定の効果も期待できるかもしれません。

さて、今日は高学年部の授業研究会。６年３組、濱田先生の学級で授業が行われました。全員で参観できなかったのは残念でしたが、それでも高学年部の先生方を中心にたくさんの先生が参観することができました。教室に入ると、心地よい緊張感の中にも、先生と子供たちの一体感、先生と子供が一緒に授業を作り出そう、という雰囲気がとても伝わってきて、これまでの授業の積み上げの成果を感じることができました。

私が、「授業（学び）が動いた」と思ったのは、「（カララがいっしょに行こうではなく、）いっしょに行ってくれるかい？」と言ったのはどうしてか、という最後の発問でした。先生の発問が終わった瞬間、（え？）という空気が教室に流れ、少しの沈黙が続きました。

まさに、主体的で　深い学びにこれから入っていく瞬間で、その後の人物関係図への書き込みでも、子供たちが苦労していること（よく考えていること）が伝わってきた発問であり時間でした。

さらに驚いたのは、プリントにかけている児童の記述です。

- クルルの本当の気持ちが知りたいから、自分でさそうんじゃなくて、きくようにいった。カララはクルルが本当はみんなといきたいことを知っていた。
- 今までとぶのをいやがっていたクルルが、ことわりやすいように質問した。
- あの時は味方してあげられなかったけど、それでもいっしょにいってほしい。

授業は教材であり、発問であることを改めて実感しました。そして何より、６年３組の中にお互いを認め合う雰囲気ができていること、嬉しく思いました。濱田先生、６年生の先生方今日までお疲れ様でした。

（文責：手代木）